

CircleK Sunkus



株式会社 サークルKサンクス



目次

株主の皆さまへ	1
WAKUWAKU?	3
2004年8月期の概況	7
要約財務諸表	9
環境保全活動・社会貢献活動	14
コンビニエンスストア業界比較	15
株主還元策	16
株主様アンケート結果のご報告	17
株式情報/会社情報	18

2004年8月期 事業報告書

2004年3月1日～2004年8月31日

[証券コード:3337]

2004年9月1日より証券コードが変わりました

株主の皆さまへ



代表取締役社長 土方 清 プロフィール

1945年愛知県生まれ。2004年9月1日、新会社サークルKサンクスの社長に就任。サークルK立ち上げ当時のメンバーで、サンクスの取締役を務めた経験もあり。サークルKとサンクスそれぞれの強みと弱みを把握した広い視野のもと、新会社の舵をとる。

「株式会社サークルKサンクス誕生！」

2004年9月1日、株式会社シーアンドエス、サークルケイ・ジャパン株式会社、株式会社サンクスアンドアソシエイツの3社は合併し、株式会社サークルKサンクスが誕生しました。サークルKサンクスとして初めての事業報告書をお届けするにあたり、まずは当社の経営理念と将来目指すべき姿についてお伝えしてまいります。

経営理念は当社におけるすべての基本となるものです。サークルKとサンクスの理念を足して2で割ったようなものではなく、新時代にふさわしい、そして飾り物にならないような内容にしたいと考え、右記のように掲げました。「社会に信頼される」とは、お客様をはじめ、地域社会や株主・加盟店・取引先の皆さま、社員など、当社を取り巻くすべてのステークホルダーから当社の存在価値を認めていただくことです。そのためには、安心・安全で高品質な商品を提供することはもちろん、コンプライアンス(法令遵守)や環境保全活動、社会貢献活動、そして公正かつ公平な情報開示など、企業規模に見合った社会的責任を果たしていかなければならないと認識しております。また、当社が「成長し続ける」ためには、社員の挑戦や改革への意欲、創意工夫の努力が不可欠です。それらを持続させるためにも、働きがいや生きがいのある企業風土を築いていく必要があると考えています。

経営理念

わたしたちは、社会に信頼され、成長し続ける企業をめざします。

経営ビジョン(将来めざすべき姿)



CircleKSunkus



コーポレートマークのコンセプト

一体感をテーマに、皆さまに親しんでいただいている両チェーンのブランドマークと新社名を組み合わせました。また、「CircleK」と「Sunkus」を結ぶ赤いアーチは、統合を表すと同時に、今後当社が向かっていく改革や挑戦といった前向きな姿勢に対する躍動感も表現しています。

この経営理念をもとに策定したのが、左記の経営ビジョンです。当社が最終的に目指すべき姿は、各施策の矢印が集中している「持続的安定成長」を実現し「社会的責任」を果たしていくことと考えています。それを目指すためのキーワードとして、「WAKUWAKU?」というキャッチコピーを打ちたてました。ワクワクがあるかないかということが、これからのサークルKサンクスにおける新しい基準となります。お客様に対して「あなたのコンビニに、ワクワクはありますか」と問いかけると同時に、私たちも自らの業務に対して「ご提供する商品やサービス、接客にワクワクはありますか」と問いかけを続けてまいります。9月1日より、全社を挙げてこの「WAKUWAKU?」をキーワードにしたキャンペーンを展開しました。詳しくは、P.3～6をご覧ください。この経営ビジョンを達成するためにも「顧客起点志向」へと徹底的に意識を改革し、お客様にとって「ベスト&オンリーワン」のコンビニエンスストアを目指していきたいと考えています。

2004年8月期の業績について

既存店売上前年比は、第1四半期(3月～5月)においてサンクスが前年を下回ったもののマイナス幅は前期に比べて縮小し、続く第2四半期(6月～8月)では猛暑効果も加わったため、2004年8月期のサークルKは+1.1%、サンクスは-1.4%となりました。また、サークルKとサンクス合わせて102店が純増となったほか、サンクスのエリアフランチャイザーであるサンクス青森株式会社とサンクス西埼玉株式会社が連結子会社として加わったこともあり、チェーン全店売上高は前年同期に比べ4.5%増加の4,795億3千4百万円となりました。利益面では、前期より取り組んでいる経費節減の効果もあり、販管費が当初見込みを下回ったため、連結営業利益は前年同期比16.1%増加の142億1千万円、連結経常利益は前年同期比30.9%増加の141億8千6百万円と、ともに計画を上回りました。また、連結純利益は前年同期比66.5%増加の79億1千8百万円となりました。なお、上記の既存店売上前年比は、6月1日より本体に吸収合併したエリア会社のシーケー東北株式会社(6月以降は東北事業部)の影響を除いています。シーケー東北に関する詳細は、P.7「エリアFCの状況」をご覧ください。

2005年2月期の見通しについて

2005年2月期は、2004年3月1日～8月31日が株式会社シーアンドエス主体の連結決算、2004年9月1日～2005年2月28日が株式会社サークルKサンクス主体の連結決算となります。このように、厳密に言うと上期と下期は別々の会社ですが、実質は同じ会社の決算であり、この両社の合計が2005年2月期(2004年3月1日～2005年2月28日)の実質的な経営成績を最もよく表しているため、ここではこの実質ベースの見通しをお伝えします。2005年2月期における連結営業総収入は1,766億5千万円、連結経常利益は232億1千万円、連結当期純利益は125億8千万円の見込みです*。また、サークルKサンクスの発足を記念し、2005年5月にお支払を予定している2005年2月期の期末配当金を、前期に比べ4円増配の20円とさせていただく所存です。

この合併を千載一遇のチャンスと捉え、すべてのステークホルダーに信頼され、評価される持続的安定成長企業を目指して強い意志で経営に臨んでまいります。株主の皆さまには、今後ともなお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

*会計上の株式会社サークルKサンクスの2005年2月期業績予想は下記の通りです。
連結営業総収入1,384億3千万円、連結経常利益173億1千万円、連結当期純利益93億1千万円

WAKU

あなたのコンビニに、

WAKUWAKU? キャンペーン

2004年9月1日、新会社サークルKサンクスの誕生とともに、「WAKUWAKU? キャンペーン」が始動しました。過去最大規模のキャンペーン広告を打ち、全国紙・地方紙合わせて19媒体に全面広告を掲載したほか、雑誌広告、中吊り広告、テレビCMなどを積極的に展開しました。また、サークルK・サンクス全店において、ガム旅行や豪華賞品が21,000名様に当たる合併記念キャンペーンを行うとともに買い得価格のセールも実施いたしました。



日本経済新聞全面広告



一般紙全面広告



中吊り広告

コンビニエンス
ストア新聞(04/9/15)日経MJ(04/8/26)
インタビュー記事

合併記念キャンペーン

クイズに答えると抽選で500組1,000名様に「ガム旅行4日間」が当たるオープンキャンペーンや、お買い上げレシートを集めて応募すると抽選で2万名様に合計約2億円分の豪華商品が当たるクローズドキャンペーンを展開しました。

合併記念キャンペーンCM

ミスマガジン2004グランプリの小阪由佳さんとミスマガジン2004読者特別賞の山崎真実さんが、サークルKとサンクスのユニフォームに身を包み、元気な笑顔で出演して下さいました。

企業CM

合併をお知らせする企業CMは全部で8パターン。個性豊かな8名の占い師の方がサークルKサンクスの未来について占う様子が放映されています。果たして占いの結果は…?



WAKU?

ワクワクはありますか。



「シーアンドエス通信」から「WAKUWAKU? 通信」へサークルKサンクスとして初めての事業報告書をお届けするにあたり、タイトルを「WAKUWAKU? 通信」に改めました。お読みいただいた株主の皆さまにもワクワクを感じていただけるよう、わかりやすく読みやすい誌面づくりに努めてまいります。

合併記念限定商品

合併を記念し、お弁当やサンドイッチ、菓子、カップ麺など、サークルKとサンクスでしかお買い求めいただけないオリジナル商品をキャンペーン期間中に展開しました。

金カップ 金箔入りごましようゆ味



Bigナポリタン



お好み幕の内



田子のんにく



ハムタマゴチーズスペシャル



オリジナル商品には

CircleKSunkus

のロゴが入っています。

シーフードパスタサラダ



チョコフレーク・ミニバー [ホワイト]



和風明太弁当



お好み焼デラックスMix



きのこの山
香るカカオのビターテイスト

ホームページがリニューアルオープン

サークルKサンクスの発足に伴い、ホームページがリニューアルオープンしました。最新のキャンペーン情報はもちろん、商品・サービスについても、サークルK・サンクス共通のオリジナル商品やサークルK、サンクスそれぞれが展開するお弁当などをご紹介します。また、会社情報ページでは、会社概要やプレスリリースのバックナンバー、環境保全活動・社会貢献活動のご報告、そしてIR・投資家情報など、多岐にわたる内容をご覧いただけます。中でも、株主様に最も関係の深い「IR・投資家情報」については、このリニューアルを機に内容を拡大し、月次営業報告のバックナンバーや株主還元策、業績ハイライトの解説なども加えました。旬な情報満載のホームページをお届けしてまいりますので、ぜひ一度ご覧下さい。

<http://www.circleksunkus.jp>

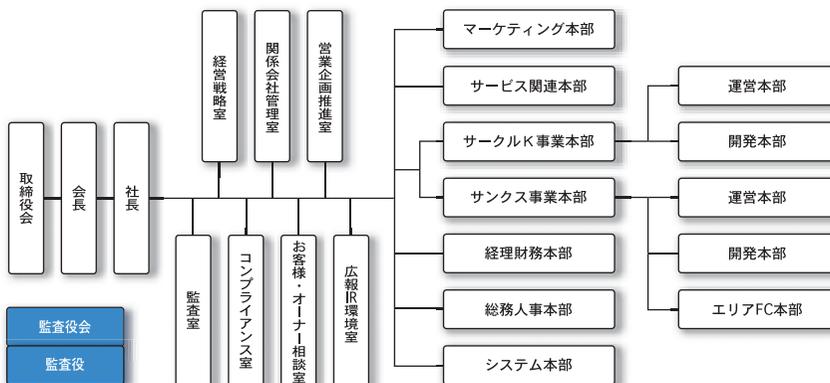


新組織サークルKサンクスの体制

サークルKサンクスはどのような体制で動き始めているのでしょうか？ 下記の組織図をもとにご説明してまいります。

当社は、サークルKとサンクスという2つの看板を当面維持していく方針ですが、ご覧の通り、本部機能については開発と運営を除くすべての部署を1本化しました。米飯やパンといったファーストフードなどについては、サークルK・サンクスそれぞれが独自の展開を行っていくため、マーケティング本部内に別々のグループを設けていますが、商品を扱うマーケティング本部自体は1本化し、6,200店ベースでの商談を進めています。一方、先述の通り2ブランド体制は変わらないため、開発本部と運営本部はサークルK事業本部とサンクス事業本部の下へ別々に配置していますが、両事業本部の進む方向についてサークルKサンクス全体の視点で総合的に立案し実践できるよう、調整役として新たに営業企画推進室を設けました。また、今後の戦略を展開していくうえで重要な役割を担う経営戦略室やサービス関連本部を新設したほか、コンプライアンス室や広報IR環境室など社会的責任を遂行するための組織も強化しています。

株式会社サークルKサンクス組織図(2004年9月1日現在)



合併効果を最大限に引き出すために

当社は、合併効果を最大限に引き出すための改革を2つ掲げています。1つはコスト構造の改革、そしてもう1つは収益構造の改革です。

コスト構造の改革としては、合併による規模の利益を最大限に享受するとともに、重複コストを削減していきます。具体的には、商品ベンダーや物流の集約を商品カテゴリーごとに段階的に実施することで荒利を改善するほか、食材や包材については調達を一本で進めていきます。また、2004年9月1日の合併時にスタッフ部門の人員を約1割削減し、営業部門へ移管しました。店舗数を年々増やす一方、従業員数については伸びを抑えることで、従業員1人あたりの効率を改善していく考えです。

収益構造の改革としては、まず6,200店のチェーン規模を背景に異業種も含めた提携を活用することで、お客様にご満足いただける商品やサービスのご提供に努めてまいります。P.8にてご紹介しております「KACHIAL」を中心としたオリジナル商品の育成や、電子マネー「Edy」機能を備えた当社専用の「KARUWAZA CLUB」カードの展開*はその一例です。また、当社収益の根本を支える店舗開発については、両事業本部がそれぞれ蓄積してきた情報を共有し強みを融合させることで、より質の高い出店を目指していきます。

このように、コスト面と収益面の双方から改革を進め、合併効果をより実のあるものにしていけるよう努めてまいります。

*展開地域は中京地区のサークルK・サンクスおよび北海道のサンクスです。

新3カ年計画を策定

連結業績の目標として、右記の新3カ年計画を策定しました。店舗数は毎期約200店の純増を、そして既存店売上前年比は厳しい経済状況を考慮し、98%から100%を想定しています。また、平均値入率は前述のベンダー集約や物流統合による効果を織り込み、最大で0.25ポイントの改善を見込んでいます。これらの数値を前提に、毎期約10%の利益成長を実現させ、新3カ年計画の最終年度である2007年2月期には、経常利益285億円、当期純利益157億円を目指す考えです。

当社は2004年9月1日に合併いたしました。これは統合の第1段階にすぎません。第3段階(2007年2月期)までにすべての業務プロセスを1本化することで、約30億円の統合効果を見込んでいます。そして、この1本化の実現に加えて、前述のコスト構造と収益構造の改革を推進することが、新3カ年計画の達成へつながらぬものと考えております。

■新3カ年計画

(単位:百万円)

	2005/2期	2006/2期	2007/2期
	第1段階	第2段階	第3段階
営業利益	24,270 (+8.2%)	27,370 (+12.8%)	30,380 (+11.0%)
経常利益	23,210 (+17.8%)	25,800 (+11.2%)	28,550 (+10.7%)
当期純利益	12,580 (+64.4%)	14,210 (+13.0%)	15,750 (+10.8%)

(注) ()内は前期比



2004年8月期の概況

2004年8月期における売上の状況は？

2004年8月期における既存店売上前年比は、サークルKが計画を上回る+1.1%、サンクスが計画を下回る-1.4%となりました。サンクスは厳しい売上状況が続いている北海道・東北地方の店舗比率が高いことに加えて酒の売上が伸び悩んでおり、この点がサークルKとの差にもつなりました。従来、サンクスは酒取り扱い店比率が業界で最も高く、これが強みとなっていました。酒販売の自由化によって酒取り扱い店が増加し競合が激しくなったため、その影響を受けています。一方、サークルKは猛暑の影響もあって売上が堅調に推移したうえ、タバコとハイウェイカードが予想以上の伸びを示したため、計画を超える結果となりました。*

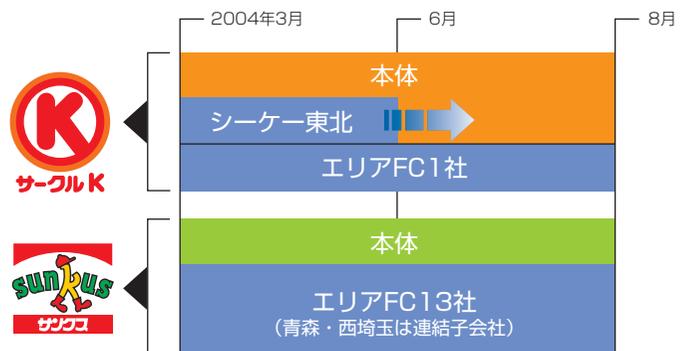
2004年8月期における出店の状況は？

投資採算を重視し、競争に勝ち残れる質の高い店舗の開発を引き続き行いました。サークルKは103店の計画に対して100店の出店と、わずかながら計画には届きませんでしたが、新店日販は47万3千円と前年同期に比べて2万5千円という大幅な改善を実現しました。サンクスは計画通りの90店を出店し、新店日販は計画を下回ったものの、前年同期に比べ2千円プラスの48万6千円となりました。一方、閉店については、前期の構造改革において年間476店という大規模閉店を実施しましたが、2004年8月期は通常のペースに戻り、サークルK46店、サンクス42店*を閉めました。なお、2004年5月にサンクスが熊本県へ進出したため、サークルKサンクスの展開地域は36都道府県となりました。

エリアフランチャイザー(エリアFC)の状況

全国に6,263店(2004年8月末現在)あるサークルKとサンクスの店舗ですが、看板は同じでも本部管轄の店舗とエリアFC管轄の店舗があります。このエリアFCとは、コンビニエンスストア業界では後発であったサークルKとサンクスが、主力地域から離れた地域での効率的な出店を目指し、地元の有力企業と設立した合併会社です。2004年8月末のエリアFC数は、下図の通りサークルK1社、サンクス13社、合計14社となっています。期首の3月時点でサークルKのエリア会社であったシーケー東北株式会社は、2004年6月1日をもってサークルK本体に吸収合併されました。また、サンクスのエリア会社のうち、サンクス青森株式会社とサンクス西埼玉株式会社は、当期より連結子会社となりました。エリアFCの経営については、独自性を尊重していますが、グループの視点で投資採算を見極め、必要に応じて人や資金を本部より投入する方針です。

*前述の通り、2004年6月1日よりシーケー東北はサークルK本体へ吸収合併されましたが、「売上の状況」および「出店の状況」の記述は計画値および前年同期との比較を可能にするため、東北事業部(旧シーケー東北)を除いています。



都道府県別店舗数 (2004年8月31日現在)

(単位:店)

		サークルKサンクス	サークルK	サンクス
北海道		275	-	275
東北	青森	179	114	65
	岩手	89	6	83
	秋田	115	29	86
	宮城	122	-	122
	山形	70	-	70
関東	福島	12	-	12
	栃木	38	-	38
	茨城	58	-	58
	千葉	202	-	202
	埼玉	177	-	177
中部・北陸	東京	650	65	585
	神奈川	338	128	210
	新潟	48	48	-
中部・北陸	長野	111	111	-
	福井	62	53	9
	富山	145	75	70
	石川	190	117	73
	静岡	334	300	34

(注)上記店舗数はエリアFCを含んでいます。

		サークルKサンクス	サークルK	サンクス
中京三県	岐阜	265	244	21
	愛知	1,060	863	197
	三重	233	199	34
関西	滋賀	55	53	2
	京都	162	108	54
	兵庫	188	44	144
	大阪	396	139	257
	奈良	119	58	61
中国	和歌山	13	13	-
	岡山	135	87	48
四国	広島	32	3	29
	香川	80	11	69
九州	徳島	60	-	60
	愛媛	133	71	62
	高知	56	28	28
九州	熊本	2	-	2
	鹿児島	59	-	59
全国計		6,263	2,967	3,296

オリジナル商品を積極展開

当社は、お客様の満足度向上とともに収益の改善を目指し、オリジナル商品の開発に力を入れています。「価値」「信頼」「安心」を基本コンセプトとした自主企画商品「KACHIAL」を雑貨・菓子で約150アイテム(9月末現在)展開しているほか、各メーカーとタイアップしたオリジナル商品も多数取り揃えています。店頭で「KACHIAL」や「CircleKSunks」のマークを発見したら、それはサークルKとサンクスでしかご購入いただけないオリジナル商品です。どうぞお見逃しなく!



105円均一菓子シリーズ「ほがら菓たいむ」

クレジットカードの取扱い開始

当社は、株式会社ジェーシービー、株式会社UFJカード、トヨタファイナンス株式会社、株式会社UCSと提携し、2004年9月30日より全店でクレジットカード決済を開始しました。上記4社が発行するカードと、JCB、VISA、MasterCardの国際ブランドがついた国内外すべてのクレジットカードがご利用いただけます。下記*を除く全商品のご購入にご利用いただけるほか、5,000円未満のお買い物であればサインも不要となります。なお、お支払方法は1回払いのみです。

*クレジットカードがご利用いただけない商品：プリペイドカード、はがき・切手・印紙類、ビール券などの金券類や公共料金などのお支払い

ご利用が可能なカード



要約財務諸表

加盟店貸勘定

2004年8月期末の加盟店貸勘定は、前年同期末に比べ2億4千1百万円減少し28億8千8百万円となりました。エリアフランチャイザーのサンクス青森およびサンクス西埼玉が連結子会社として加わったことによる影響を除くと、減少額はさらに大きくなり3億6千5百万円となります。

長期差入保証金

2004年8月期末の長期差入保証金は、前期末に比べ18億1千万円増加しました。これはサンクス青森およびサンクス西埼玉の2社が連結子会社として加わったことによる影響が8億2千9百万円あったほか、前期の構造改革に伴う大量閉店から一転し、当期の店舗数が増加したことなどによるものです。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2004年8月期 2004年8月31日現在	2004年2月期 2004年2月29日現在	2003年8月期 2003年8月31日現在
[資産の部]			
流動資産	89,216	75,230	77,186
現金及び預金	53,655	39,654	45,273
加盟店貸勘定	2,888	3,600	3,129
有価証券	14,801	13,101	11,101
たな卸資産	2,071	1,922	2,168
繰延税金資産	1,172	2,130	1,039
その他	15,082	15,414	15,272
貸倒引当金	△ 455	△ 593	△ 799
固定資産	132,370	129,642	132,854
有形固定資産	41,979	39,724	39,448
建物及び構築物	28,483	25,980	25,626
器具及び備品	3,860	4,199	4,669
土地	9,506	9,367	9,091
その他	128	177	59
無形固定資産	19,979	20,770	23,231
ソフトウェア	5,973	7,021	8,321
ソフトウェア仮勘定	257	162	264
連結調整勘定	11,332	11,224	12,158
その他	2,415	2,362	2,487
投資その他の資産	70,412	69,147	70,173
投資有価証券	4,732	5,820	5,832
繰延税金資産	4,452	4,731	5,077
長期差入保証金	54,476	52,665	53,277
その他	8,080	8,069	8,156
貸倒引当金	△ 1,330	△ 2,140	△ 2,169
資産合計	221,587	204,873	210,040

(単位:百万円)

	2004年8月期 2004年8月31日現在	2004年2月期 2004年2月29日現在	2003年8月期 2003年8月31日現在
[負債の部]			
流動負債	85,567	75,877	82,586
買掛金	46,919	40,909	47,678
加盟店借勘定	5,247	3,111	4,696
短期借入金	14	500	1,150
未払金	6,423	6,446	5,399
未払法人税等	4,386	3,313	4,240
預り金	17,721	16,746	14,470
賞与引当金	780	724	785
その他	4,075	4,124	4,166
固定負債	18,554	18,049	17,983
長期借入金	49	-	-
退職給付引当金	4,554	4,499	4,324
役員退職慰労引当金	50	328	296
預り保証金	12,973	13,023	13,178
その他	925	198	184
負債合計	104,122	93,927	100,570
[少数株主持分]			
少数株主持分	0	-	-
[資本の部]			
資本金	13,469	13,469	13,469
資本剰余金	26,223	26,223	26,223
利益剰余金	77,182	70,731	69,216
その他有価証券評価差額金	670	596	634
自己株式	△81	△74	△73
資本合計	117,464	110,945	109,469
負債・少数株主持分及び資本合計	221,587	204,873	210,040

短期借入金／長期借入金

連結子会社が増えた影響で、短期借入金1千4百万円および長期借入金4千9百万円が計上されましたが、前期末5億円あったサンクスの短期借入金をグループ内金融でまかない、サークルKサンクスとしては無借金となりました。

預り金

2004年8月期末の預り金は、前年同期末に比べ32億5千万円増加しました。そのほとんどは、公共料金などの収納代行サービスによるものです。公共料金の取扱い金額は、サークルKが前年同期比11.7%増、サンクスが15.6%増と順調な伸びを示しています。

販売費及び一般管理費

サンクス青森とサンクス西埼玉の2社が新たに連結子会社として加わった影響が約12億5千万円あったほか、販売促進費として米飯の販売強化策に約6億円を投じましたが、前期より取り組んでいる経費節減に努めた結果、2004年8月期は前年同期に比べ7億6百万円の増加に押さえることができました。なお、計画比では14億円のマイナスとなりました。

営業利益／経常利益

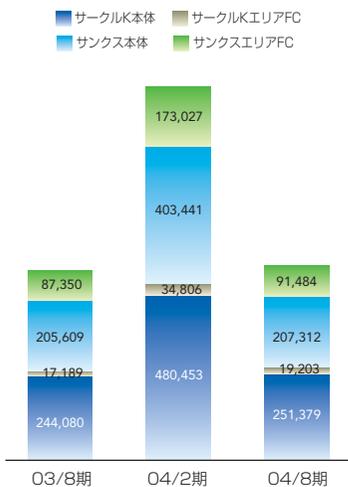
2004年8月期の営業利益は、売上の好調に加えて、上記の通り販管費が計画を下回ったため19億7千2百万円の増加となりました。また、前年同期は構造改革の年として大量閉店を実施していましたが、2004年8月期は閉店数が例年並みとなったことで、営業外費用のうち閉店に伴う解約損害金は前年同期に比べ11億円7千3百万円減少しました。これにより経常利益は前年同期に比べ33億4千9百万円増加しました。

連結損益計算書

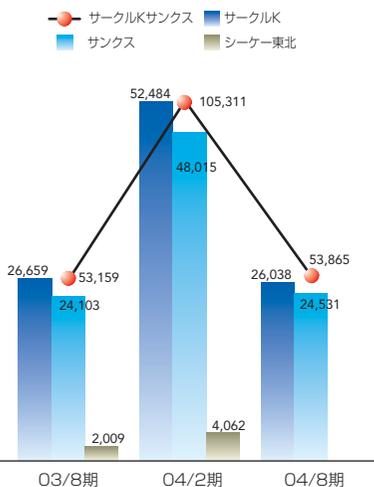
(単位:百万円)

	2004年8月期 2004年3月1日から 2004年8月31日まで	2003年8月期 2003年3月1日から 2003年8月31日まで	増減
営業収入	60,903	58,282	2,621
売上高	29,513	28,779	734
営業総収入	90,417	87,062	3,355
売上原価	22,340	21,664	676
営業総利益	68,076	65,397	2,678
販売費及び一般管理費	53,865	53,159	706
営業利益	14,210	12,238	1,972
営業外収益	612	437	175
営業外費用	637	1,838	△1,201
経常利益	14,186	10,836	3,349
特別利益	142	38	104
特別損失	784	1,844	△1,060
税金等調整前当期(中間)純利益	13,544	9,030	4,514
法人税、住民税及び事業税	4,437	4,127	309
法人税等調整額	1,187	145	1,042
少数株主利益	0	-	-
当期(中間)純利益	7,918	4,757	3,161

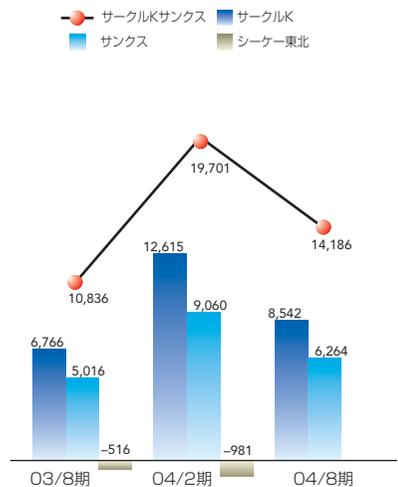
グループ売上高の推移 (単位:百万円)



販売費及び一般管理費の推移 (単位:百万円)



経常利益の推移 (単位:百万円)



連結剰余金計算書

(単位:百万円)

	2004年8月期 2004年3月1日から 2004年8月31日まで	2004年2月期 2003年3月1日から 2004年2月29日まで	2003年8月期 2003年3月1日から 2003年8月31日まで
[資本剰余金の部]			
資本剰余金期首残高	26,223	26,223	26,223
資本剰余金(中間)期末残高	26,223	26,223	26,223
[利益剰余金の部]			
利益剰余金期首残高	70,731	65,932	65,932
利益剰余金増加高	7,918	7,651	4,757
当期(中間)純利益	7,918	7,651	4,757
利益剰余金減少高	1,467	2,852	1,473
配当金	1,378	2,757	1,378
役員賞与	89	93	93
自己株式処分差損	0	2	1
利益剰余金(中間)期末残高	77,182	70,731	69,216

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2004年8月期 2004年3月1日から 2004年8月31日まで	2003年8月期 2003年3月1日から 2003年8月31日まで	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,878	23,269	609
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,868	△4,355	△2,513
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,408	△1,932	△476
現金及び現金同等物の増加額	14,600	16,981	△2,381
現金及び現金同等物の期首残高	52,756	39,392	13,363
新規連結子会社の増加による 現金及び現金同等物の増加額	389	-	-
現金及び現金同等物の (中間)期末残高	67,746	56,374	11,371

設備投資

2004年8月期における設備投資の総額は94億7千3百万円となりました。その主なものは、店舗賃借時の差入保証金や店舗設備といった新店にかかわるものが67億6千6百万円、既存店活性化への投資が10億7千万円、無形固定資産や長期前払費用の支出などシステム関連の投資が9億4千8百万円となっています。

現金及び現金同等物

2004年8月期は、閉店数が従来のペースに戻ったことで閉店による敷金・保証金の回収が減少するとともに、新規出店や店舗条件改善に伴って保証金の差入による支出が増加し、投資活動によるキャッシュ・フローは前年同期に比べ25億1千3百万円の支出超過となりました。また、借入金の返済も進めましたが、現金及び現金同等物の2004年8月期末残高は、連結子会社が増えた影響を除いても前年同期末より149億8千9百万円増加しました。

個別貸借対照表

(単位:百万円)

	2004年8月期 2004年8月31日現在	2004年2月期 2004年2月29日現在
[資産の部]		
流動資産	4,245	2,980
現金及び預金	1,340	626
有価証券	2,100	1,100
貯蔵品	0	0
前払費用	1	3
繰延税金資産	220	162
未収入金	579	1,086
その他	2	1
固定資産	94,000	93,900
有形固定資産	14	12
建物	5	6
器具及び備品	8	6
無形固定資産	3,959	3,860
商標権	8	4
ソフトウェア	3,690	3,691
ソフトウェア仮勘定	257	162
借家権	0	0
電話加入権	1	1
投資その他の資産	90,027	90,026
関係会社株式	88,279	88,279
関係会社長期貸付金	82	-
繰延税金資産	1,631	1,635
長期差入保証金	29	29
その他	7	84
貸倒引当金	△3	△3
資産合計	98,245	96,880

(単位:百万円)

	2004年8月期 2004年8月31日現在	2004年2月期 2004年2月29日現在
[負債の部]		
流動負債	873	235
未払金	318	51
未払費用	13	11
未払消費税等	3	13
未払法人税等	8	-
預り金	530	159
固定負債	3,877	3,886
役員退職慰労引当金	-	206
長期前受収益	3,877	3,680
負債合計	4,751	4,122
[資本の部]		
資本金	13,469	13,469
資本剰余金	26,223	26,223
利益剰余金	53,883	53,140
利益準備金	687	687
別途積立金	48,060	46,760
当期末処分利益	5,136	5,692
自己株式	△81	△74
資本合計	93,494	92,758
負債・資本合計	98,245	96,880

個別損益計算書

(単位:百万円)

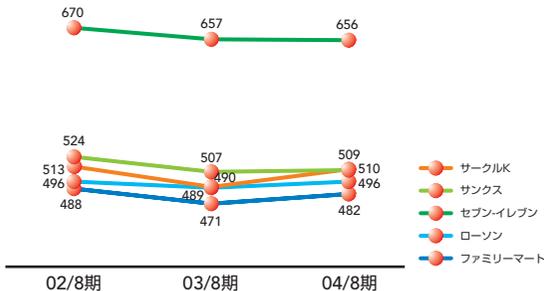
	2004年8月期 2004年3月1日から 2004年8月31日まで	2003年8月期 2003年3月1日から 2003年8月31日まで
営業総収入	2,545	2,526
営業総利益	2,545	2,526
販売費及び一般管理費	392	408
営業利益	2,152	2,118
営業外収益	6	26
営業外費用	17	0
経常利益	2,142	2,144
税引前当期(中間)純利益	2,142	2,144
法人税、住民税及び事業税	40	2
法人税等調整額	△53	△6
当期(中間)純利益	2,155	2,148
前期繰越利益	2,981	2,787
自己株式処分差損	0	1
当期(中間)未処分利益	5,136	4,934

コンビニエンスストア業界比較

サークルKサンクスはコンビニエンスストア業界の中でどのくらいの位置にいたのだろうか…? そのような疑問にお答えすべく、コンビニエンスストア業界における主要な営業指標についてまとめました。今回より各指標を推移で掲載しています。

●全店日販 (単位:千円)

1日1店あたりの平均売上高



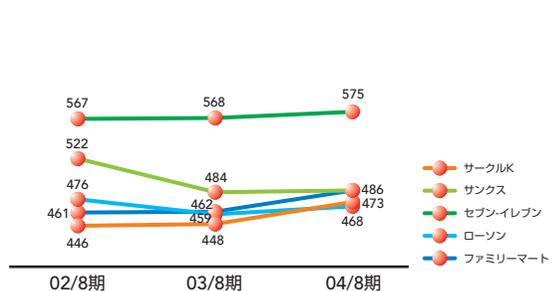
セブン-イレブンが65万円以上を維持し、その他4社が53～47万円が続いています。この4社は、冷夏やハイウェイカード(ハイカ)販売終了の影響により03/8期は低迷したものの04/8期には回復しました。サークルKサンクスは、ハイカの影響が他社より大きかった03/8期のサークルKを除き50万円台を維持しています。

⇒サークルKサンクスの動向は?

ファーストフードの強化はもちろん、04年9月より高額商品の購入に便利なクレジットカード決済を全店で開始するとともに、チケットやDVD、ゲームソフトなど高額商品の取扱いにも力を入れ、売上向上を目指します。

●新店日販 (単位:千円)

新店(=開店後1年内の店舗)における1日1店あたりの平均売上高



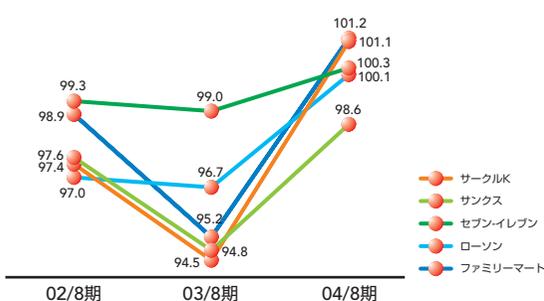
各社とも質を重視した出店に注力していることもあり、02/8期から04/8期にかけて概して改善傾向が見られます。特に04/8期のサークルKとファミリーマートは、顕著な回復が見られました。セブン-イレブンに4社が続くという状況は全店日販と変わりませんが、その差は新店日販の方が小さくなっています。

⇒サークルKサンクスの動向は?

質重視の出店はもちろんですが、質を求めるあまりに投資が膨らみすぎることのないよう投資採算を見極めつつ、愛知万博や中部国際空港、病院やパーキングエリアなど新しい立地へも積極的に出店していきます。

●既存店売上前年比 (単位:%)

既存店(=開店後1年以上経過した店舗)における売上高の前年比

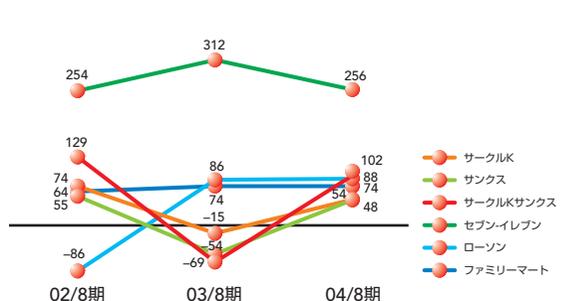


02/8期、03/8期は全社が前年を下回っていましたが、04/8期はサンクスを除く全社が前年を上回りました。03/8期のサークルKとファミリーマートは、ハイカ販売終了の影響が比較的大きかったこともあり大きく落ち込みましたが、04/8期は大きな回復を遂げました。

⇒サークルKサンクスの動向は?

P.7に記載した状況もあり、04/8期はサンクスのみが98.6%となりました。新3カ年計画では売上の伸びを保守的に設定していますが、これでよしとしているわけではなく、販売強化策により売上向上を目指します。

●店舗純増数 (単位:店)



ファミリーマートやローソンと同様、サークルKサンクスも03/8期に構造改革による大量閉店を行いました。概して各社とも純増しています。純増数においてもセブン-イレブンに4社が続く状況が見られますが、その差はこの3期の中でやや縮小しています。

⇒サークルKサンクスの動向は?

04/8期はセブン-イレブンに次ぐ102店となりました。より良い立地への店舗置き換えを進めるとともに、名古屋市や東京都心部など既に集中出店している地域へ重点的に出店することで、その地域での優位性を揺るぎないものにしてまいります。

(注) 04/8期のサークルK数値は、東北事業部(6月に合併した旧シーケー東北)の数値を除いて計算しています。

株主還元策

サークルKサンクス誕生記念「4円増配」と「株主様ご優待カードプラス1枚進呈」

サークルKサンクスの誕生を記念し、日頃当社をご支援いただいている株主の皆さまへ、配当金と株主優待において利益還元をさせていただきます。

まず、配当金については、2005年5月にお支払いする予定の期末配当を記念配当2円を含む前期比4円増配とし、1株あたり20円とさせていただきます。これにより2005年2月期の年間配当は36円、配当性は24.7%となる見込みです。また、株主優待については、この事業報告書と一緒に送付しております「株主様ご優待カード」を、進呈枚数に1枚プラスしてお届けしております。

株主還元策の基本方針

当社は高い成長性を維持するとともに、経営基盤を強化するための内部留保を充実させながら、業績に沿って株主の皆さまへ利益を還元してまいります。具体的には、第一に安定配当の維持を考え、利益の伸びに応じて連結当期純利益の約20%を配当として還元する方針です。また、将来的には配当性を30%まで高めていきたいと考えています。

合併交付金(2005年2月期中間配当相当)

1株あたり16円とさせていただきます。株主様へお支払する金額は、下記の算式の通りとなります。

$$\text{お支払金額} = 16円 \times \text{ご所有株式数} \times 0.9$$

(源泉徴収税として10%が引かれるため)*法人の場合を除く

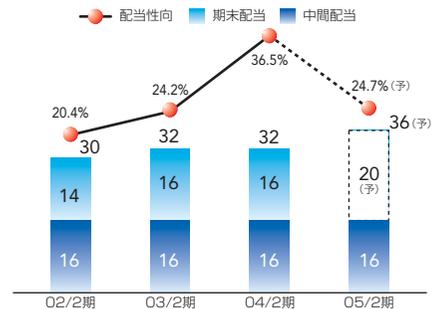
なお、支払日である2004年11月19日の時点で株式会社シーアンドエスが消滅しているため、今回は「合併交付金」としてお支払しておりますが、実質的には2005年2月期の中間配当に相当するものです。合併交付金のお受け取り期間などについては、裏表紙のカレンダーをご覧ください。

株主優待制度

合併後も引き続き、サークルKサンクスとして株主優待制度を継続してまいります。サークルK・サンクス全店でご利用いただける「株主様ご優待カード」を、右記の通り株数に応じて、年2回、8月末および2月末の株主様に対して進呈しています。



配当金の推移(単位:円)



※2004年2月期の配当性は大量閉店に伴う閉店損失などにより減益となったため36.5%と非常に高い数値を示しています。

ご所有株式数	株主優待内容
100～499株	1,000円分(年2,000円分)
500～999株	2,500円分(年5,000円分)
1,000株以上	5,000円分(年10,000円分)

優待カードを使いたいけれど、店舗の場所がわからないという株主様へ

当社ホームページの「店舗検索」ページより、お近くのサークルK・サンクスをご検索いただけます。住所や地図からはもちろん、酒・タバコの販売や駐車場、ATMの有無など店舗条件からもお探しいただくことが可能です。ぜひご利用下さい。



<http://www.circleksunkus.jp/shop/index.html>

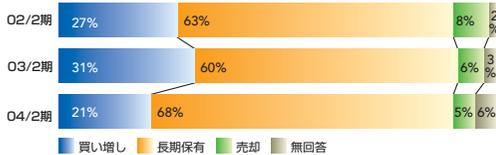
株主様アンケート結果のご報告

「2004年2月期事業報告書」においてアンケートを実施させていただきましたところ、これまでで最も多くのご回答をお寄せいただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございます。下記にご回答の集計結果をご報告いたします。

回答率:6.0%(前回比+1.3%)

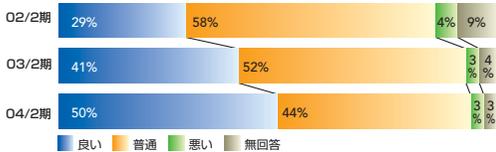
当社株式に関する今後の方針

「買い増し」が2割、「長期保有」が7割、「売却」が1割弱となりました。以前も最も多いご回答は「長期保有」でしたが、その割合がさらに増加しています。



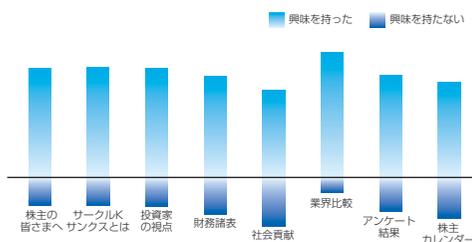
当社IR(投資家向け広報)への評価

2002年2月期には、「良い」という評価は3割に満たなかったのですが、今回のアンケートでは半数の方に「良い」との評価を頂戴することができました。さらに高い評価をいただけるよう、今後もIRの充実に努めてまいります。



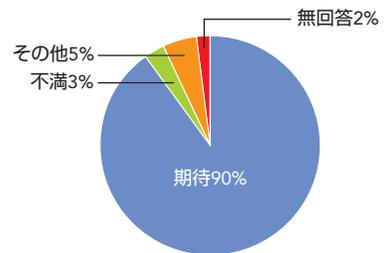
事業報告書内容について

「コンビニエンスストア業界比較」が最も興味の高い項目でした。そこで今回より内容をリニューアルし、業界比較の数値を推移でもご覧いただけるようにしました。一方、ご興味も最も低い項目は「社会貢献活動」でしたが、株主様へのご報告はやはり肝要であると考え、今後もお伝えしていく予定です。



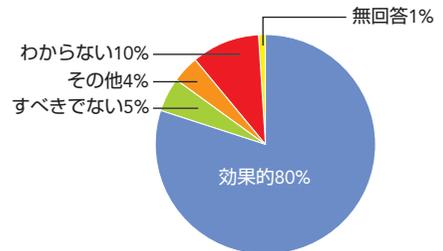
サークルKサンクスの経営体制について

役員数を半減し、執行役員制度を導入した当社の経営体制について、9割の方から「期待している」とのご回答をいただきました。理由としては、意思決定のスピード向上が望めるからというご意見が大半を占めていました。皆さまのご期待に添えるよう努めてまいります。



2004年2月期の大量閉店について

8割の方から「今後の体質改善につながり効果的」とのお答えをいただきました。2004年2月期は、閉店損失により減益となりましたが、今後は年間400店のペースで出店を行い、強い体質の店舗網を築いてまいります。



■ アンケートご協力をお願い ■

皆さまの率直なご意見をお聞かせいただきたく、アンケートハガキを同封させていただきました。お寄せいただいたご意見をもとに、今後もより充実したIRを目指していきたくと考えております。つきましては、大変お手数ですが、アンケートにご協力下さいますようお願い申し上げます。ご回答をご記入のうえ、ご住所とお名前欄に添付の保護シールを貼り、切手を貼らずにそのままご投函下さい。

株式情報

証券コード変更のお知らせ

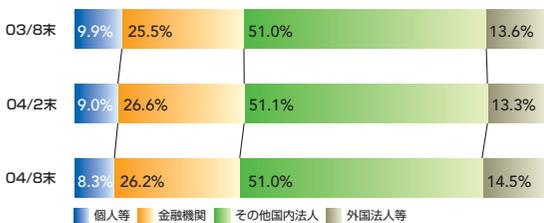
この度の合併により、2004年8月26日をもってシーアンドエス株式が上場廃止となり、2004年9月1日よりサークルKサンクス株式が上場されたため、証券コードが変更となりました。新しい証券コードは3337です。

株式数および株主数

(2004年9月1日現在)

会社が発行する株式の総数	180,000,000株
発行済株式総数	86,183,226株
株主数	10,775名

株式構成比の推移

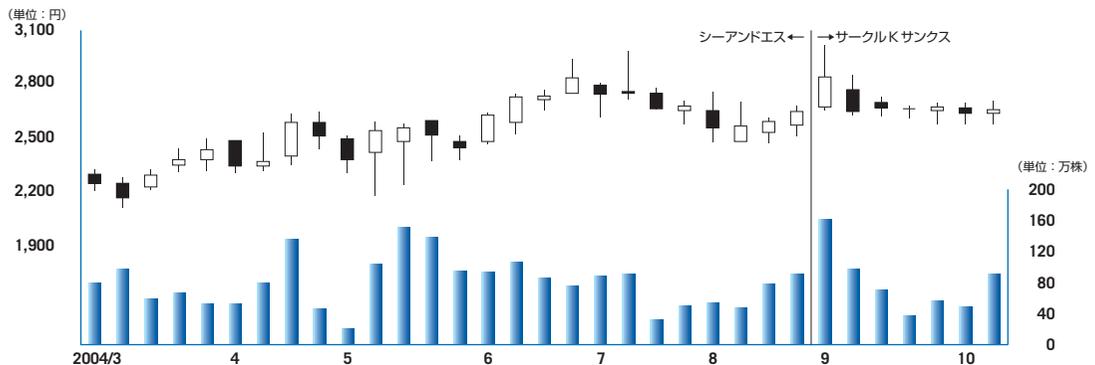


大株主 (上位10位)

(2004年9月1日現在)

株主名	持株数	持株比率
ユニー株式会社	40,746,520	47.28%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	7,240,200	8.40%
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	5,695,100	6.61%
野村證券株式会社	1,293,700	1.50%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー505103	1,159,128	1.34%
橘高 隆哉	775,262	0.90%
野村信託銀行株式会社(投信口)	711,300	0.83%
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	617,600	0.72%
メロンバンク トリーティア クライアーツ オムバス	604,536	0.70%
カネ美食品株式会社	576,000	0.67%

株価および出来高の推移



会社情報

(2004年9月1日現在)

会社概要

商号	株式会社サークルKサンクス
本部所在地	〒135-8539 東京都江東区塩浜二丁目20番1号 塩浜ビル
電話番号	03-5635-3939(代表)
登記上本店所在地	愛知県稲沢市天池五反田町1番地
ホームページアドレス	http://www.circleksunkus.jp
設立	2001年7月2日 (注) サークルKサンクスの前身であるサークルケイ・ジャパン株式会社が、持株会社の株式会社シーアンドエス発足に伴い会社分割した日。会社分割前のサークルケイ・ジャパン株式会社は1984年1月26日設立。
資本金	83億8,040万円
発行済株式数	86,183,226株

役員

取締役会長	外山 泰三
代表取締役社長	土方 清
代表取締役専務(サンクス事業本部長)	夫馬 泰彦
代表取締役専務(サークルK事業本部長)	石原 彰
常務取締役(営業企画推進室長兼関係会社管理室長)	滝田 貞男
取締役相談役	橘高 隆哉
取締役(総務人事本部長)	平野 俊文
取締役(非常勤)	佐々木孝治
常勤監査役	宮崎 恒充
常勤監査役	加納 憲治
常勤監査役	小倉 恒久
監査役	桂川 明
監査役	都築 義明

株主様カレンダー

2004年11/18	右記3点を発送 ①合併交付金関連書類 ②04/8期 事業報告書 ③株主様ご優待カード(04年秋発行) → 
11/19	合併交付金 銀行振込の方 → 本日付でご指定の口座へ振込まれます
11/19~12/20	合併交付金 郵便局受け取りの方 → 左記の期間、郵便局でお受け取りになれます ※12/21以降はお近くの住友信託銀行にてお受け取り下さい
11/30	株主様ご優待カード(03年秋発行) ご利用最終日 → 
2005年1月	第3四半期決算発表
2/10~2/28	単元未満株式買い増し手続き 受付停止期間
2/22	サークルKサンクス株式最終売買日(権利付株式最終売買日)
2/23~2/28	左記の期間に当社株をご購入されても、05年2月末における配当・優待の権利は得られません
4月中旬	05/2期 決算発表
5/25(予定)	第4回定時株主総会・事業説明会開催 大手町サンケイプラザにて 05/2期 事業報告書など株式関係書類発送
5/31	株主様ご優待カード(04年春発行) ご利用最終日 → 

単元未満株式買い増し制度

単元(100株)未満株式の買い増し制度により、例えば現在30株をお持ちの場合、70株を買い増して100株にすることが可能です。下記の受付停止期間を除いて1年中いつでも買い増しいただけます。手続きの詳細は、株式のご所有形態によって異なりますので、下記までお尋ね下さい。

- 受付停止期間:本決算および中間決算の期末日を含む各々それ以前の12営業日(カレンダーご参照)
※当社が売り渡すべき株式を保有していない場合、ご請求に応じられないことがあります。
- お問合わせ先:保管振替制度をご利用の方 → お取引の証券会社
登録株となっている方 → 住友信託銀行(株主メモご参照)

株主メモ

決算期 毎年2月末日

株主確定基準日

①定時株主総会、利益配当金 :毎年2月末日

②中間配当金 :毎年8月31日

その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 決算期から3ヵ月以内

1単元の株式数 100株

上場証券取引所

東京証券取引所および名古屋証券取引所市場第一部

公告掲載新聞名 日本経済新聞

名義書換代理人

大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

住所変更等用紙のご請求 ☎ 0120-175-417

その他ご照会 ☎ 0120-176-417

(インターネットホームページURL)

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

同取次所

住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店